

平成23年行政事業レビューシート

(国土交通省)

| | | | | | | | | |
|-----------------------------------|---|----------|-----------------|--|------|-----------------|------|-----------|
| 事業名 | 災害に強い物流システム構築事業 | | 担当部局 | 総合政策局 | | 作成責任者 | | |
| 事業開始・終了(予定)年度 | 平成24年度 | | 担当課室 | 物流政策課 | | 参事官(物流産業) 金井 昭彦 | | |
| 会計区分 | 一般会計 | | 施策名 | 19 海上物流基盤の強化等総合的な物流体系整備の推進、みなとの振興、安定的な国際海上輸送の確保を推進する | | | | |
| 根拠法令 (具体的な条項も記載) | - | | 関係する計画、通知等 | 東日本大震災からの復興の基本方針 (平成23年7月29日)(東日本大震災復興対策本部) 復興への提言～悲惨のなかの希望～ (平成23年6月25日)(東日本大震災復興構想会議) | | | | |
| 事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内) | 大規模災害の発生時においても、早急な物流網の復旧が図られ、支援物資等の円滑な輸送を確保できるよう、官民における災害時の協力体制の構築や広域物資拠点施設の整備等を推進することで、「災害に強い物流システムの構築」を支援する。 | | | | | | | |
| 事業概要 (5行程度以内。別添可) | 東北地方全体の復旧・復興や産業の再構築に併せて災害に強い物流システムの構築を進めるため、協議会において、今後の東北地方の支援物資物流のあり方・考え方等についての検討や必要な調査等を実施し、災害に強い物流システムの構築を推進していくための指針となるべき「物流計画」の策定等を行う。 | | | | | | | |
| 実施方法 | 直接実施 | 業務委託等 | 補助 | 貸付 | その他 | | | |
| 予算額・執行額 (単位:百万円) | 予算の状況 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度 | 24年度要求 | | |
| | | 当初予算 | - | - | - | - | 14 | |
| | | 補正予算 | - | - | - | - | | |
| | | 繰越し等 | - | - | - | - | | |
| | 計 | - | - | - | - | 14 | | |
| | 執行額 | - | - | - | - | | | |
| 執行率(%) | - | - | - | - | | | | |
| 成果目標及び成果実績 (アウトカム) | 成果指標 | | 成果実績 | 単位 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 目標値(25年度) |
| | 災害時緊急支援物資の保管等に関する地方自治体と民間企業等の災害時応援協定の締結数 | | | 件 | - | - | - | 6 |
| | | | 達成度 | % | - | - | - | |
| 活動指標及び活動実績 (アウトプット) | 活動指標 | | 活動実績 (当初見込み) | 単位 | 20年度 | 21年度 | 22年度 | 23年度活動見込 |
| | 協議会設置数 | | | 箇所 | - | - | - | - |
| | | | | | - | - | - | (1) |
| 単位当たりコスト | 3,564(千円/件) | | 算出根拠 | 官民が共同で実施する協議会を設置・運営するのにかかる費用 (単位あたりコスト=協議会運営に係る費用/協議会実施件数) | | | | |
| 平成23・24年度予算内訳 | 費目 | 23年度当初予算 | 24年度要求 | 主な増減理由 | | | | |
| | (本省分) | | | | | | | |
| | 職員旅費 | - | 0.4百万円 | | | | | |
| | (地方運輸局分) | | | | | | | |
| | 諸謝金 | - | 0.1百万円 | | | | | |
| | 職員旅費 | - | 0.3百万円 | | | | | |
| | 委員等旅費 | - | 2百万円 | | | | | |
| | 総合的物流体系整備推進調査費 | - | 11百万円 | | | | | |
| 計 | - | 14百万円 | | | | | | |

計数は、原則としてそれぞれ四捨五入によっているので、端数において合計とは合致しないものがある。

| 事業所管部局による点検 | | | |
|--|--|--|------|
| | 評価 | 項目 | 特記事項 |
| 目的・予算の状況 | | 広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。 | - |
| | | 国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。 | |
| | - | 不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。 | |
| 資金の流れ、費目・使途 | - | 支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。 | - |
| | - | 単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。 | |
| | - | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | |
| | - | 資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。 | |
| | - | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | |
| 活動実績、成果実績 | | 他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。 | - |
| | - | 適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。 | |
| | - | 活動実績は見込みに見合ったものであるか。 | |
| | - | 類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか | |
| | - | 整備された施設や成果物は十分に活用されているか。 | |
| 点検結果 | <p>「復興への提言」及び「東日本大震災からの復興の基本方針」において、「交通・物流施設への防災機能の付加や民間のノウハウや施設の活用などソフト面を重視した災害ロジスティクスの構築等により災害に強い交通・物流網を構築する」と記載されたことに基づき実施する事業であり、民間のノウハウや施設の活用手段のひとつとして、地方自治体と民間企業が災害時緊急支援物資の保管等に関し災害時応援協定を締結すること事業の目標としている。</p> <p>協議会は、国、自治体、民間事業者等の異なる立場のメンバーが共同で開催することとなり、関係者全員が協力して事業を実施していく仕組みとすることで、より多くの意見の取込みやより効果的な議論ができるような手法となっている。</p> <p>なお、大規模災害時の物流機能の維持や緊急支援物資の輸送は、被災者の生命・生活の確保や被災地域の復旧・復興等のためには必要不可欠なものであり、物流産業を所管する国土交通省が国民の安全・安心確保のために責任を持って取り組むべき事業である。</p> | | |
| 予算監視・効率化チームの所見 | | | |
| | - | 東日本大震災からの復興等の推進の観点から優先度の高い事業であり、効果的な施策として効率的に執行できるよう努めるべき。 | |
| 上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等) | | | |
| | | | |
| 補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載) | | | |
| | | | |